英

教科に関する調査の設問別の分析結果 「基礎・基本」定着状況調査 中学校英語 6 1

- 6 次の1~4の会話文の()にあてはまるもっとも適切な英語を,それぞれ下のア~エの中から選び,その記号を書きなさい。
- 1 A: What () Akiko and Ken do on Sunday?
 - B: They play basketball.
 - (注) Akiko アキコ (人名) Ken ケン (人名)

ア is イ are ウ do エ does

【出題の趣旨】

適切な語を用いた会話文の組立てができる。

【学習指導要領の内容・領域】

読むこと(ウ)大切な部分などを正確に読み取ること

内容 (3)言語材料 工 文法事項

(ア) 文 a 単文,重文及び複文

b肯定及び否定の平叙文

d 疑問文のうち,動詞で始まるもの,助動詞 (can, do, may など) で始まるもの,or を含むもの及び疑問詞 (how, what, when, where, which, who, whose, why)で始まるもの

(イ) 文構造 c [主語+動詞+目的語]のうち,

(a) 主語+動詞+名詞

	正答率
本校	42.9%
広島県	21.3%

	解答類型	本校の人数
		(人)
1	ウ do	3
2	\mathcal{T} is	1
3	1 are	3

この問題を解くために必要な力

文法事項(ア)文(イ)文構造の知識 文の意味を考えて,適切な語を用いて会話文の組立てをする力

誤答分析

解答類型3について

- ・be 動詞と一般動詞の使い分けが定着していない。
- ・語順、特に動詞の位置を理解していない。
- ・doの一般動詞としての意味・用法が理解できていない。
- ・1文に1つの動詞という原則が知識として定着していない。

解答類型2について

・どこまでが主語かをとらえられない。単純に I ならば am, Akiko (人名)で is とする。複数ならば are/do という意識が薄い。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント「基礎・基本」定着状況調査 中学校英語 6 1

【単元名】 Unit 6 20th Century Greats

調査結果からみる課題

【課題となる力】

- 「動詞」が理解できていない。
- ·be 動詞と一般動詞の使い分け
- ・語順,特に動詞の位置
- ・do の一般動詞としての意味・用法

主語の把握

・どこまでが主語かをとらえられない。単純にIならば am, Akiko(人名)で is とする。複数ならば are/do という意識が薄い。

【指導上の課題】

文法事項 (ア)文(イ)文構造を理解させきれていなかった。

文の意味を考えて,適切な語を用いて会話文の組立て をする力の育成が不十分であった。

定着させるためのくり返し学習(=十分な練習量)が 不足していた。

「会話文のつながり」や「問いと答えの関係」を考えながら,話したり書かせたりする指導が不足していた。

指導改善のポイント

基礎的・基本的な知識を活用し,英文法に従ってきちんとした文を書く力の育成をめざす

【指導の工夫】

単文の構造の理解を確認しながら,先行詞を修飾するための文構造を,並べかえ練習などで練習させる。

自分で考えた文を書かせ,文構造の定着を図る。 ペアワークなどで「問いと答えの関係」を考えさせ ながら、会話練習をさせる。

関係代名詞を使って一人ひとりにクイズを出させ,文構造の定着をねらう。
例)Do you know the animal () runs fast? 早く走る動物を知っていますか。 Do you know () () () the highest in the world? 広島で一番高い山を知っていますか。 in Japan?
――――――――――――――――――――――――――――――――――――
生徒一人ひとりに何枚かの単語カードを持たせ、最初は指示通りに文を作らせ、次に自分で考えた文を作らせる。
例 this is the dog has long hair that
I know bus goes to Osaka .

例えば「わたしは長い毛の犬を知っている。」という意味になるように語を選択し,並べさせる。 カードを増やしていき,まとめとして自分で作りたい文を作らせる。

「問いと答えの関係」を考えさせながら、クイズ形式のペアワークを行なう。

中学校第3学年 英語科学習指導案

単元名: Unit 6 20th Century Greats

1 日 時 平成21年12月1日(火) 13:00~13:50

2 場 所 3年教室

3 学年・クラス 3年生(男子8名 女子1名)

4 単元名・教材 Unit6 20th Century Greats

単元について

本単元での場面設定は、絵美たちのクラスの英語の授業で20世紀の偉人の中から一人を選び、レポートを出すという課題が出され、絵美たちのグループはレイチェル・カーソンについて調べ、まとめることになったという設定である。環境問題に関して草分け的存在であるカーソンの業績と生涯について知り、環境問題に目を向けていくのにふさわしい単元である。

言語材料としては、これまで前置詞を主にした形容詞句、不定詞、及び分詞による後置修飾を学んできたが、この単元ではそれに加えて接触節、主格の関係代名詞 who, that, which と目的格の関係代名詞 that について扱う。名詞をさらに詳しく修飾することができる方法という利点をいかした活動を仕組み、様々な表現ができるという楽しさを生徒に実感させたい。そして、主語の把握、動詞の理解など、文・文構造の理解を確かなものにしていきたい。

調査結果からみる課題

誤答分析から

- 「動詞」が理解できていない。
- ·be 動詞と一般動詞の使い分けが定着していない。
- ・語順,特に動詞の位置を理解していない。
- ・doの一般動詞としての意味・用法が理解できていない。

主語の把握

・どこまでが主語かを捉えられない。単純にIならば am, Akiko (人名)で is とする。複数ならば are/do という意識が薄い。

指導上の課題

文法事項(ア)文(イ)文構造を理解させきれていなかった。

文の意味を考えて,適切な語を用いて会話文の組立てをする力の育成が不十分であった。

定着させるためのくり返し学習(=十分な練習量)が不足していた。

「会話文のつながり」や「問いと答えの関係」を考えながら,話させたり書かせたりする指導が不足していた。

指導改善のポイント

指導内容・指導方法について

単文の構造の理解を確認しながら,先行詞を修飾するための文構造を,並べかえ練習などでくり返し練習させていく。

ワークシート等を使って自分で文をたくさん作らせ、文構造の定着を図る。

「問いと答えの関係」を考えさせながら,クイズ形式のペアワークを行う。

単元の目標

	ア コミュニケーションへ の関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
聞く			[正確な聞き取り] 聞いた内容について 正しく理解できる。	
話す	[言語活動への取組み] 学んだ表現を積極的 に使っている。	[正確な発話] 話そうとすることを 聞き手に正確に伝える ことができる。		
読む		[正確な音読] 正しい強勢,イントネーション,区切りなどを用いて音読することができる。	[正確な読み取り] 読んだ内容について正しく理解できる。 [適切な読み取り] 書かれた内容について大切な部分を読み取	[言語についての知識] 文構造についての知 識をもつ。 [文化についての理解] 環境問題について自 分なりの考えをもつ。
書く		[正確な筆記] 文法に従って正しく 書くことができる。		

指導と評価の計画

(全11時間)

						評価	
次 学習内容(時数)		関	表	理	知		評価方法
	・接触節を用いた					・文構造についての知識をもっている。	ワークシート
	文の形,意味,						
	用法を理解す						
	る。						
l	・接触節を使った					・文法に従って正しく書くことができる。	ワークシート
	文を作る。(1)						
	・本文の内容を理					・読んだ内容について正しく理解することができる。	授業ノート
	解する。						
	・音読練習をする。					・正しい強勢,イントネーション,区切りなどを用いて	行動観察
	(1)					音読することができる。	
	・主格の関係代名					・文構造についての知識をもっている。	ワークシート
	詞 who 用いた文						
	の形,意味,用						
	法を理解する。					+ / / \ · · / / TRATE / / /	IEW I
_	・本文の内容を理					・読んだ内容について正しく理解することができる。	授業ノート
—	解する。 (1)						
	・音読練習をする。					・正しい強勢,イントネーション,区切りなどを用いて	ペアで発表
	・ ア吉の ト物を日					音読ができる。 ・学んだ表現を積極的に使っている。	 発表
	│・写真の人物を見 │ て説 明 す る。					子///に衣坑で慎煙可に戻りている。	光衣
	(1)						

	・主格の関係代名	・文構造についての知識をもっている。	ワークシート
	詞 that, which		
	を用いた文の		
	形,意味,用法		
	を理解する。		
	・主格の関係代名	・文法に従って正しく書くことができる。	ノート
\equiv	詞 that, which		
	を用いた文を作		
	る。(本時)		
	・本文の内容を理	・書かれた内容について大切な部分を読み取ることが	授業ノート
	解する。	できる。	1227
	・音読練習をする。	・正しい強勢,イントネーション,区切りなどを用い	行動観察
	(1)	て音読ができる。	1 主// 主// 六
	・目的格の関係代	・文構造についての知識をもっている。	ワークシート
	名詞 that を用	久悔とについてのが聞いてもっている。	
	いた文の形,意		
	味,用法を理解		
	する。		
	・目的格の関係代	・文法に従って正しく書くことができる。	ワークシート
四	名詞 that を用	* 大人に従って正して言くことができる。	
	いた文を作る。		
	(1)		
	・本文の内容を理	・読んだ内容について大切な部分を読み取ることがで	授業ノート
	解する。	・読んだ内谷について人切な品力を読み取ることができる。	技未ノート
	・音読練習をする。	・正しい強勢,イントネーション,区切りなどを用い	行動観察
			1」劉旣宗
	(1)	て音読ができる。	ワークシート
	・関係代名詞のま	・文構造についての知識をもっている。	ソークシート
	とめをする。	. ウミヴ / だま理などを使っている	ワークシート
_	・スキットを作る。 / 1 \	・自ら学んだ表現などを使っている。	7-79 - 6
五	(1)	M 2 2 1 4 2 - 1 4 8 2 7 1 7 7 1 1 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	+= /= > ·
	・スキットを仕上	・話そうとすることを聞き手に正確に伝えることがで	評価シート
	げ,発表する。	きる。	
	(1)		
	・教科書の確認を	・環境問題について自分なりの考えをもっている。	ワークシート
六	する。		
' \	・リスニング活動	・聞いた内容について正しく理解することができる。	ワークシート
	をする。(1)		

本時の学習

(1)本時の目標

・主格の関係代名詞 that, which を用いた文の形,意味,用法を理解し使うことができる。

(2)本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 ウォームアップ			
・あいさつをする。 What day is it today? What's the date today?など	・英語学習の雰囲気を作る。		
主格の関係代名詞 who の復習をする。 Bell is the man who invented the telephone.など	・写真を見てテンポよく文を作ることが できるように指導する。		
2 展 開			
主格の関係代名詞 that, which の導入をする。 例)・This is the man who dances very well. ・This is the mouse that dances very well.	・主格の関係代名詞 who との比較をしながら導入する。		
主格の関係代名詞 that, which を使	った文を作ろう。		
ワークシートを使ってクイズを作る。(学習ワークシート Step1) 作ったクイズをペアで出し合う。 (学習ワークシート Step2) 1. I know the bus that goes to Osaka.	・簡単な空欄補充から始め文構造を理解 させる内容までスモールステップで たくさんの例文を書かせる。 ・テンポよく質問させ,応答させる。 ことばの力活用ポイント 整った文で質問し,応答する。	エ 文構造に ついての知 識をもって いる。	ワークシート
to Osaka. 2. Pochi is the dog that has long hair. 3. I have the CD that is popular in Japan. 作った英文を発表する。	・並べ替え問題,空欄補充問題をさせ,文型の確認を行う。 ・最初は指示した文を作らせるが,自由な文も作らせてみる。作った文は必ず書いて残させる。 ・発表した文に対しての和訳をテンポよくさせていく。	イ 文法に従 って正しく 書くことが できる。	ノート
3 まとめ			
・まとめノートを書く。	・目標に沿って個々の理解度がどのよう であったかを振り返らせる。		

検 証

検証の方法

・調査問題の実施

語順の確認 (安芸太田町英語部会作成調査問題より)

ユニット6

これは私がアメリカで撮った写真です。

(America / this / a picture / took / I / is / in).

私は英語を話す男の子を知っています。

(the boy / I / know / who / English / speaks).

これは彼女によって書かれた手紙です。

(which / a letter / is / by / her / this / written / was).

これは彼が去年書いた本です。

(a book / last year / this / that / is / wrote / he).

検証結果

- 1 88.9%正答
- 2 66.7%正答
- 3 77.8%正答
- 4 77.8%正答

分析・考察

- 1 指導の工夫 の並べかえ練習を取り入れた結果 ,80%以上の生徒が正しい語順で英文を書くことができた。しかしながら ,「これは写真です。」という結論先行型の文構造であることを定着させきることができていなかった。
- 2 I know までは80%以上の生徒が書けていたが,関係代名詞以降の語順を正しく書くことができていなかった。指導の工夫をもう少し発展させ,練習量を増やす必要がある。
- 3 指導の工夫 の並べかえ練習をする際に , which が主格の関係代名詞であることを十分に理解させるだけの練習量ではなかった。 そして , 確認し , 復習させるという丁寧な指導ができていなかったため , 文の中で which が主格として正しく扱われていなかった。
- 4 This is までは全員が書けていたが ,that を目的格の関係代名詞ととらえていないために , that の次に主語を置くことができていなかった。 指導の工夫 について ,さらに工夫し ,丁寧な指導が必要であったと考えられる。